



第三中学校だより

校訓

- 健康な体
- 豊かな心
- たゆまぬ学習

学校教育目標

自主 自律 未来をひらく三中生

～自ら考え、自らの意思で、未来をたくましく生き抜く生徒～

和光市立第三中学校
Tel 048-461-3306
相談室 TEL 461-6698

〒351-0104 埼玉県和光市南2-2-1
ホームページ <http://3chu.wako-city.ed.jp/>

令和4年1月11日発行

「 1日にできること 」

校長 石川 毅

新年を迎えると、いろんなところで初の付く言葉に出会います。

初明り(はつあかり) (初日の出の直前にほのぼのと差してくる太陽の光)

初東雲(はつしのめ) (元日の夜明けにはほのかに明るくなる東の空)

初凧(はつたぎ) (風が止まった穏やかな正月風景、新年のめでたい光景)

初晴(はつはれ) (1月1日の晴天のこと。農家では五穀豊穡のしるし)

どの言葉もその年初めての自然現象をめでたいものと受け止める言葉のようです。今年1年の初をありがたく受け取りながら気持ちも新たにしたいものです。

さて、この3学期、2学期は81日と長かったのに対して3学期は51日、3年生は3月15日の卒業証書授与式の日までの登校となるので43日です。とても短い3学期ですが、次のステージへの準備期間でもあり大切な時期になります。この3学期をどのように過ごすか次第で、4月以降の生活も変わってくるのではないのでしょうか。

「人間が1日にできることなんて、本当に僅かなもの」という1節を書籍で読んだことがあります。そこに書かれていた内容は『1日、24時間はあつという間。特に睡眠が3分の1近くあるわけで、実質はもっと短い。その他、生きる上で必要な時間を差し引くと、自分が自分のために使える時間はごく微少で、1日にできることはほんの僅か。だとするならば、その僅かを積み重ね、毎日少しずつやってみる。すると、ある時こんなものが自分に作れたのかと驚くことがある。』といったものでした。著者の職業柄からくる言葉なのでしょうが、この話は、私たちの日常生活にも相通ずるところがあるなと共感したものです。毎日を忙しく生活していると、自分のために使うまとまった時間は思った以上に少ないものです。その少なさから「こんなことをやってみたい」とか「これをやらなければ」と思っても「時間がないから」とあきらめてしまう自分がいるとするならば、それは勿体ないことです。わずかな時間を使ってでもあきらめないで少しずつ歩みを進めていくことは、子供たちの学習面だけの話ではなく、人間として生きていく上で大切にしたい考え方だなと私は思います。言い換えるならば「継続は力」ということになるのでしょうか。

1日に自分のために使える時間を何に使うかは自分次第です。勉強でも読書でも、自己啓発や健康にいいことでも。毎日の積み重ねから「こんなものができた」、「こんなことができるようになった」、「こんな自分になれた」と驚ける自分に気づけたら、それはとても幸せなことではないのでしょうか。

寒い日が続きますが、冬の寒さがあるからこそ花も咲くといえます。生徒たちにも、3学期の日々を有意義に過ごして花開く春を迎えてほしいものです。

